

ゲフィチニブ錠250mg「DSEP」

医療機関名 (連絡先)

〈緊急時連絡先〉

医師名

薬剤師名

ゲフィチニブ錠250mg「DSEP」 による皮膚症状とスキンケアの実際



発行

第一三共エスファ株式会社

東京都中央区日本橋本町3-5-1

EPGEF1P00601-1

2019年2月作成

監修：国立がん研究センター中央病院
皮膚腫瘍科 山崎直也 先生

はじめに	
皮膚症状のコントロールが大切	1
皮膚症状の種類	2
皮膚症状の治療法	5
ステロイド外用剤、保湿剤の使い方	9
日常のスキンケアのポイント	12

ゲフィチニブは、EGFR遺伝子変異陽性の非小細胞肺癌において、がん細胞の増殖に必要なたんぱく質の働きを選択的に妨げることにより、がん細胞の増殖を抑えます。

治療中には、皮膚症状をはじめさまざまな副作用が現れますが、それは薬が働いている証拠でもあります。皮膚症状の種類や適切なスキンケアを十分に理解したうえで、上手にコントロールしながら、ゲフィチニブの服用を続けることが重要です。

この冊子では、副作用である皮膚症状について、その対処法とスキンケアの実際について解説していきます。

わからないことや不安なことがありましたら、遠慮なく主治医や薬剤師、看護師等の医療スタッフに相談してください。

皮膚症状のコントロールが大切

▶ 皮膚症状が起こるのは

上皮増殖因子受容体 (EGFR) はがん細胞に発現しており、がん細胞の増殖などに関与しています。ゲフィチニブはこのEGFRを標的として「効果」を発揮します。一方で、このEGFRは、皮膚にも存在することが知られており、がん以外に皮膚にも作用することで「副作用」として皮膚の症状が現れると考えられています。

これらの皮膚症状は患者さんにとって好ましくないことですが、皮膚症状はきちんとした対処を行うことでコントロールできる場合が多いので、必要以上に心配することはありません。

もし皮膚症状が現れたら、必ず主治医や看護師・薬剤師に相談して適切な処置を受けてください。皮膚症状のためにゲフィチニブの服用を自己判断で止めたりしないでください。決められたとおりにゲフィチニブを飲み続けながら、皮膚症状をコントロールすることが日常生活を豊かにすることにつながります。



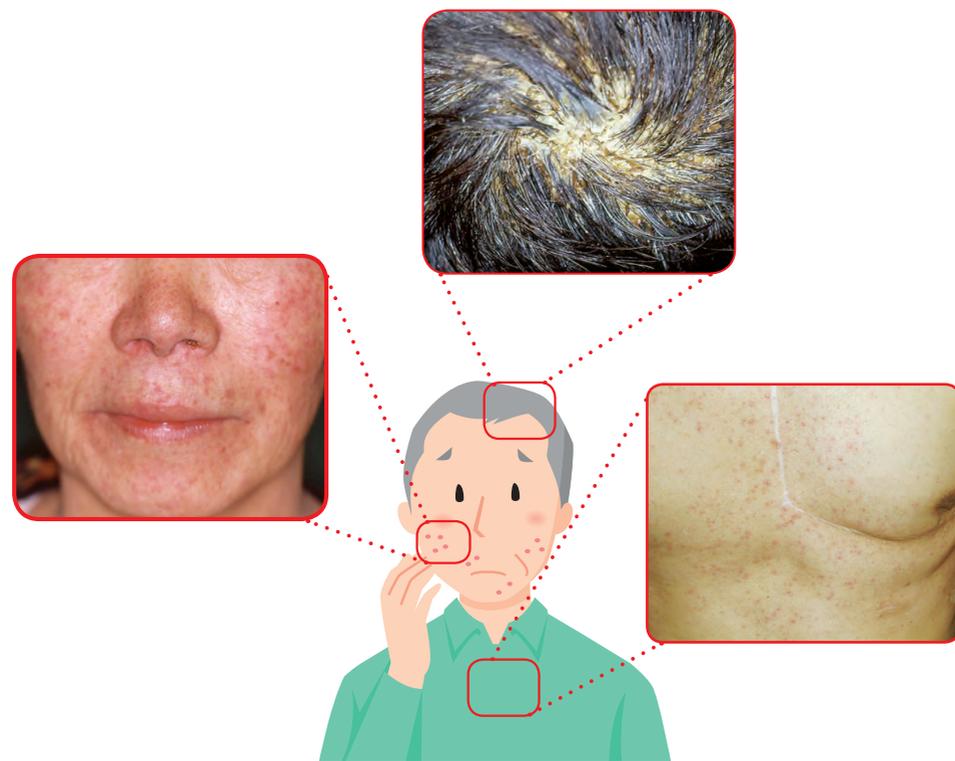
皮膚症状の種類

ゲフィチニブを飲んでいる患者さんの多くに、何らかの皮膚症状が現れてきます。主な皮膚症状には、発疹や乾燥肌、かゆみなどがあり、爪の異常が現れることもあります。

発疹

頭や顔をはじめ、胸やお腹、ふとももなどに、赤い斑点やにきびのような発疹が現れます。

ゲフィチニブを飲み始めてから1~2週間程度で症状が現れます。



乾燥肌

全身の皮膚がかさかさした状態で、全体的に白い粉がふいたような見た目になります。時に指の先・手のひら・足の裏の亀裂がみられることがあります。

ゲフィチニブを飲み始めてから2～3週間程度で発症します。



かゆみ

発疹や乾燥肌に伴って全身に生じることが多いです。

「かゆい」からといって掻き過ぎてしまうと、感染を起こすなどかえって状態を悪くしてしまうことがあります。

ゲフィチニブを飲み始めてから1～2週間程度で症状が現れます。



爪の異常

手足の爪のまわりに炎症がみられ、腫れたり亀裂などが生じて痛みを伴うようになることがあります。症状がひどくなると出血したり、痛みが徐々に増して日常的な動作が困難になることもあります。

ゲフィチニブを飲み始めてから1ヶ月程度で発症します。



皮膚症状の治療法

ゲフィチニブによる皮膚症状は、その多くが軽症～中等症なので適切な処置を行うことにより2～3週間以内に軽快することが多いです。適切なスキンケアを合わせて行うことがとても効果的です。しかし症状に合わせた処置を行わない場合、重症化することもありますので、必ず主治医や看護師・薬剤師に相談し適切な処置を受けてください。

皮膚症状を上手にコントロールしながら、ゲフィチニブの服用を続けることがとても大切になります。



発疹・乾燥肌・かゆみ

通常は炎症を抑えるために**ステロイド剤の塗り薬 (外用剤)** が用いられます。症状の程度に応じ「かなり強い」「強い」「普通」などのステロイド剤が使い分けられます。

決められた量を決められた回数きちんと塗ることを心がけてください。

また、細菌を退治したり炎症を抑える働きのある**抗生剤の飲み薬 (内服剤)** が用いられることもあります。

- 皮膚乾燥がある場合
保湿剤 (軟膏、クリーム、ローション) も一緒に用いられます。
- かゆみがひどい場合
抗アレルギー剤や抗ヒスタミン剤などの飲み薬 (内服剤) も一緒に用いられます。



爪の異常

症状が悪化すると激しい痛みを伴いますので、異常に気付いたら早めに主治医や看護師・薬剤師に相談して適切な処置を受けるようにしてください。

- 患部がジクジクしている場合
洗浄とガーゼ保護などを行います。
- 赤みや腫れがある場合
ステロイド剤の塗り薬 (外用剤) や抗生剤の飲み薬 (内服剤) などが用いられます。
- 赤みや腫れがひどい場合
痛みを和らげるために外科的な処置 (一部の爪を切る処置や凍結療法など) を行います。

▶ 痛みをやわらげる方法：テーピングの巻き方

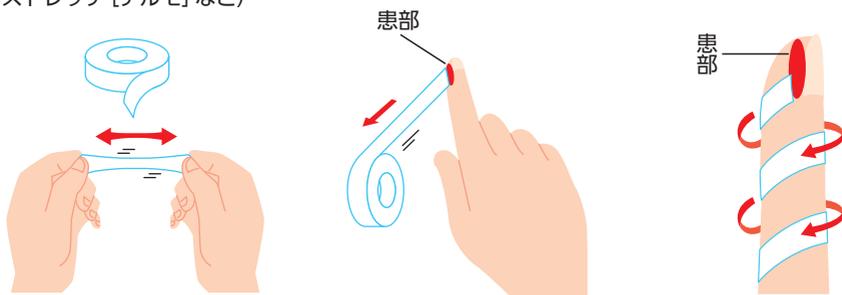
爪の際が皮膚にささり込んでいるようなら、伸縮性のある絆創膏などで周囲の皮膚を引っ張ることで痛みを和らげることができます。

スパイラル法

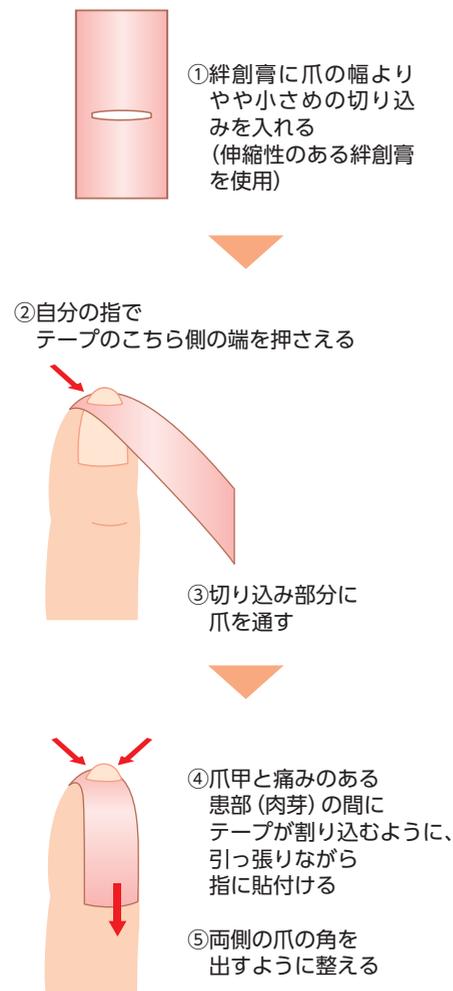
① 固いテープは血がめぐりにくくなる恐れがあるため、伸縮性のある布製の絆創膏を使用します (フィクソムル・ストレッチ [テルモ] など)

② 痛みのある側の爪の横の皮膚にテープを張り、爪と皮膚の間を引き離すように引っ張ります

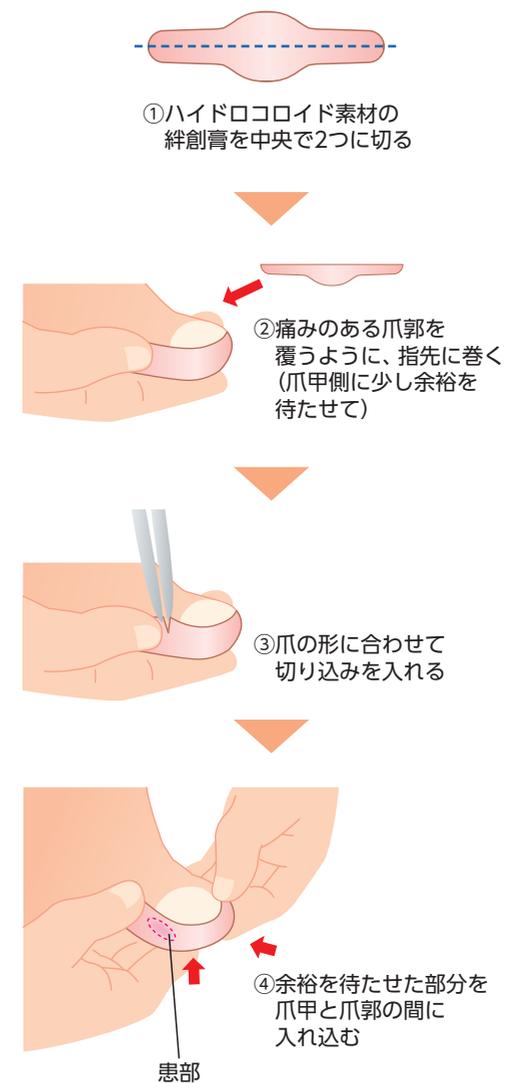
③ 引っ張りながら、血のめぐりが悪くならないように、らせん状に指に巻き付けます。テープは1日1回交換します



ウインドウ法



ハイドロコロイド法



ステロイド外用剤、保湿剤の使い方

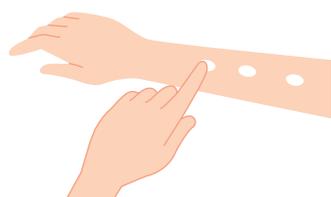
▶ステロイド外用剤のぬり方

ステロイド外用剤は、決められたとおりに正しく使うようにしてください。治ってきたからといって、医師の指示無く急にステロイド外用剤の使用を止めると、症状が悪化してしまう可能性があります。外来の度に、医師と相談して症状にあわせたステロイド外用剤をきちんと使用するようにしましょう。

- 1日2回（朝、夜；入浴後）、患部にぬります。
- すり込むのではなく、皮膚に刺激を与えないようやさしくぬります。
- 手のひらの上でお薬を温めて、薄く伸ばしてぬります。
- 小さい患部には指の腹を、広い患部には手のひらを使います。

塗布の方法

数箇所に分けて置く



手のひらで全体に広げる



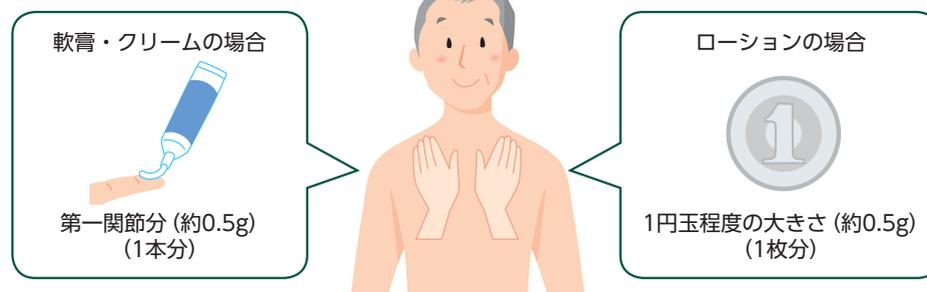
▶お薬をぬるときのコツ

- 入浴や洗顔などで、汗や汚れ、古いお薬を取り除いた後にぬりましょう。
- ぬり薬は皮膚が乾燥していると伸びにくいので、入浴直後の皮膚がうるおっているときにぬるとよいでしょう。
- 皮膚が乾燥している場合は、まず保湿クリームやローションをぬってから、その上に重ねぬりします。

▶ステロイド外用剤・保湿剤をぬる量の目安

1回にぬる必要量は、部位によって異なります。

必要量の目安



大人の手2枚分くらいの広さの患部に対して

軟膏、クリームは人差し指の先から第一関節までの量、ローションは1円玉大が約0.5gとなり、**これが必要量の目安で、成人では手のひら2枚分に対しての必要量です。例えば、片腕全体にぬる場合は、指先の第一関節分で3本分の軟膏が必要になります。**

部位ごとの使用量の目安

	軟膏・クリーム	ローション
顔と首	× 2.5本分	× 2.5枚分
胸と腹	× 7本分	× 7枚分
背中とおしり	× 7本分	× 7枚分
片腕	× 3本分	× 3枚分
片手	× 1本分	× 1枚分
片脚	× 6本分	× 6枚分
片足	× 2本分	× 2枚分

日常のスキンケアのポイント

▶保湿クリーム・ローションのぬり方

- 基本的に処方された保湿剤を使います。
- 新たに市販品を併用する場合は、できるだけ低刺激性（無香料、アルコールフリー）のものを選びましょう。ただし、使い慣れたものがあれば、わざわざ変更する必要はありません。
- 皮膚を清潔にした後で、からだ全体にぬります。
- 入浴、洗顔、手洗い後は、すぐに保湿剤をぬりましょう。
- 皮膚症状がある場所だけでなく乾燥したところ、手足や指先、爪の周りには1日何回もこまめにぬりましょう。
- 保湿剤をぬる量は10ページの図が目安になります。



▶ステロイド外用剤、保湿剤、基礎化粧品を一緒に使うとき

- 基礎化粧品を使うときは、肌に浸透させるため、保湿剤の前に使用します。
- ステロイド外用剤は、他の部位へ広がらないように注意してぬります。

塗布の順序の目安

塗布するもの	塗布の順序の目安
保湿剤+ステロイド外用剤	保湿剤 → ステロイド外用剤
保湿剤+基礎化粧品	基礎化粧品 → 保湿剤
保湿剤+基礎化粧品+ステロイド外用剤	基礎化粧品 → 保湿剤 → ステロイド外用剤

皮膚症状を軽くし、ゲフィチニブの治療を続けるためには、適切なスキンケアを行うことが大切です。スキンケアの基本は、「清潔」「保湿」「刺激からの保護」です。以下のポイントを参考にしてください。

▶清潔にしましょう

- よく泡立てた石鹸で、なでるように洗いましょう。

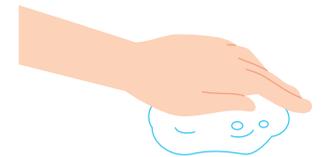
泡タイプの石鹸、泡立て用のネットを活用しましょう。



泡タイプの石鹸



泡立て用のネット



下に向けても落ちない泡をつくりましょう

- 水やぬるま湯で十分にすすぎましょう。
- 水分は、柔らかいタオルで押さえるように拭きましょう。

赤く腫れた部分も、よく泡立てた石鹸でなでるように洗い、水でよくすすぎましょう。
清潔を保つとともに、水で冷やすことで痛みの軽減にもつながります。

▶入浴・シャワー

- 入浴またはシャワーを毎日しましょう。
- かゆみが強いは、ぬるめのお湯にしましょう。
- 硫黄の入った入浴剤は皮膚を乾燥させますので、避けましょう。
- シャンプー・石けんはできるだけ低刺激性（弱酸性・無香料など）のを選びましょう。ただし、使い慣れたものを続けることもあります。
- 柔らかいタオル（ナイロン製のものは避けてください）やガーゼ、手のひらなどでよく泡立ててから、やさしく洗いましょう。
- シャンプー・石けんは、しっかり洗い流しましょう。
- 入浴後は、清潔なタオルを用い、こすらず軽く押さえるようにして乾かします。



▶洗顔

- 泡で洗う気持ちでやさしく洗いましょう。手と顔の皮膚の間に常に泡があるようにします。
- 洗顔料は皮膚の状態を考えて、できるだけ低刺激性のものを選びましょう。
- 洗顔後は、女性だけではなく男性も保湿剤を使用しましょう。

洗顔の手順

①ぬるま湯で顔全体を濡らします



湯温は37℃くらいを目安にします。
お湯が熱すぎると肌が乾燥してしまいます。

④目元・口元に泡をなじませます



皮膚が薄い部分なので、こすりすぎないように注意して、やさしく洗いましょう。

②洗顔料を泡立てます



泡立ちにくいときは、泡立てネットなどを使いましょう

⑤ぬるま湯で、しっかり洗い流します



髪が生えている部分や、髪と顔の境目部分、あごから首の部分などにも泡が残らないようにやさしくていねいに洗い流しましょう。

③Tゾーン・Uゾーンに泡をなじませる



皮脂の多いTゾーンから始めます。
指の腹を使って、泡と汚れをなじませましょう。

▶化粧

- ポイントメイクなど、できるだけシンプルなお化粧を心がけましょう。
- お化粧する前は保湿ケアを十分に行ってください。
- 化粧品はできるだけ低刺激性（無香料、アルコールフリー）のものを選びましょう。
- ファンデーションをぬる時は、清潔な指やスポンジで優しく軽く肌におくようにして、横すべりではなく軽くポンポンとパッティングするイメージでつけていきましょう。
- 皮疹のある部位には、皮疹をつぶさないように軽く表面にのせるようにつけましょう。



▶クレンジング

- クレンジングはお化粧が残らないよう丁寧に行いましょう。
- オイルタイプは洗浄力が強く皮膚への負担が強いため、避けましょう。
- 拭きとりタイプは皮膚をこすって刺激になることもありますので、洗い流すタイプのものが無難でしょう。
- 肌にやさしい、クリームタイプやミルクタイプのメイク落としを、手のひらで温めてから用いるとよいでしょう。
- 量が少ないとこすって刺激になることがあるので、適切な量を用いて、なじませるようにしましょう。
- すすぎはぬるま湯で行いましょう。
- もし、クレンジングで皮疹がつぶれて出血した時は、きれいに洗顔を行い、清潔と保湿を保ちます。



商品に付記されている適切な量を使用する

▶ひげ剃り

- ひげを剃る前に蒸しタオルなどで皮膚をやわらかくしましょう。
- 通常のカミソリでは、肌を傷つけて皮膚症状を悪化させたり、感染したりする原因となるため、洗浄機能付きの電気シェーバーをおすすめします。
- 電気シェーバーはこすらず上から押し当てるように使いましょう。

▶日焼け予防

- 外出時は長袖の衣服を着て、つばの広い帽子、サングラス、手袋、スカーフ、日傘などを活用して紫外線の刺激を避けましょう。
- 肌が出ている部分には、日焼け止めを用いましょう。
- 日焼け止めはSPF30以上、PA++以上を目安にします。
- 長時間外出するときは、必要に応じて塗り直します。
- 日焼け止めの成分で肌への刺激が強いものがあるので、「ノンケミカル」または「紫外線吸収剤不使用」の表示があるものを選ぶことをおすすめします。

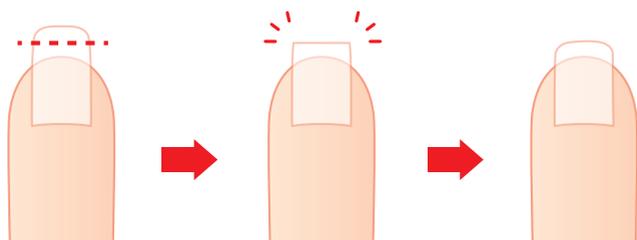


▶爪の手入れ

- 手袋、靴下を着用しましょう。
- 爪の先を圧迫するきつい靴や底が固い靴は履かないようにしましょう。
- サンダルを履くときも靴下を履きましょう。
- 爪に汚れがたまっている場合は、清潔な綿棒などで汚れを取りましょう。
- 爪には細菌が繁殖しやすいので、毎日石けんで指の間を1本ずつていねいに洗い、清潔にしましょう。
- ひび割れを防ぐため、入浴後あるいは蒸しタオルであたためるなど爪をやわらかくしてから爪を切りましょう（またはヤスリを使います）。
- 爪を切るときは、深爪にならないよう指先より少し（1～2mm）長く残して、角は丸く削りましょう（丸めすぎないようにしましょう）。
角はヤスリで削ると良いでしょう。



爪の切り方

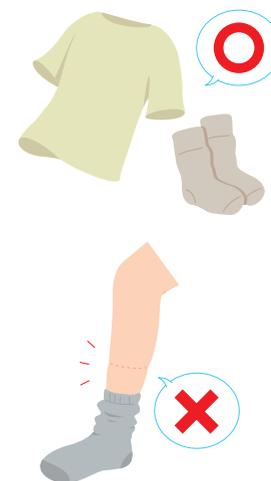


爪切りで四角く切る

爪ヤスリで角は丸く削る

▶衣類選び

- 肌に直接触れる肌着・靴下や、顔や首・手足と接触する衣服などは、合成繊維を避け、できるだけ刺激が少ない素材（木綿など）を選びましょう。
- ピタッとした衣服は避け、締め付けすぎない、ゆったりしたものを選びましょう。



▶靴

- 高いヒール、足幅が狭く締めつけるものは避けましょう。
- サンダルやスリッパは、つま先が覆われているものを選びましょう。
- 足底を刺激するサンダルは避けましょう。

▶室内環境

- 室内は清潔な状態に保ちましょう。
- 室温の急激な変化や室内の乾燥も皮膚の乾燥を引き起こし、かゆみの原因となりますので、加湿器などで適度な温度・湿度を心がけるようにしてください。

